大日化成 ECOへの取り組み

ECOLOGY

大日化成株式会社は、環境に配慮した事業の推進を目指す企業として積極的にエコ活動に取り組み、地球環境の保全と向上に貢献していきます。

3月11日、震災直後に痛感させられました。身の回りの便利さが「電気の力」で支えられてきたことを今、いやと言うほど思い知らされています。どんなに需要が増しても電気の供給が途絶えることなど戦争が起きない限りありえないと思っていました。でも、それは違っていました。大自然が人間に忠告するかのように。

私たちに電力供給の仕組みそのものが、このままでいいのか改めて問い掛けています。

そうして「節電」が国民一致のスローガンになっている今年の日本。

当社も、大阪本社、東京支店、岡山工場で、事務所の蛍光灯は最低限の使用にしたり、冷房の設定温度を28度にして涙ぐましい努力を行っていますが、全体的にはあまり効果が見えてきません。原因は、使用電力の大半が製造設備によるものであるから。

そこで、節電の大切さは誰もがわかるが、一方に「足りないから自分達で発電できないのか。」と、行動を起こす人々が増えてきているようです。

どんな方法で取組まれているのか、調べてみると、自家発電の一般的な方法としては、手動式発電、エンジン式発電、太陽光発電、蓄電池付太陽光、家庭用風力発電の5つのパターンがあるようです。

比較検討すると、コスト面では手動式が最も安いが、効果から考えるとその他の発電方式が現実的と言えます。しかし、どちらも「主力」までには遠く、現時点ではあくまで緊急時用の選択肢と言えそうです。

一方企業においても「企業内発電」の動きが出てきました。大企業の工場などでは、最近の規制緩和で自前の発電所を持つ企業も多くなってきましたが、小規模な自家発電設備も関心が高まっています。

今のところ1000kW未満の自家発電設備には届出が義務づけられていませんが、電力不足対策として余剰電力の売電を検討するため経済産業省が調査を開始しています。

今後小規模の企業発電も売電の可能性が出てきます。企業内発電システムも社会の要求に応える存在になりそうですが、まだ時間が幾分必要に思われます。

そこで昨今、様々なメディアで太陽光反射塗料が紹介され、住宅やビルの簡便な省エネ対策として脚光を浴びています。

当社でもビッグサンMR工法（金属屋根用）・ビッグサンSR工法（スレート屋根用）の省エネ・環境配慮型の改修システムをお客様に積極的に提案しております。

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

スタッフ紹介

日頃は営業活動やお電話で応対させていただいておりますスタッフの日常をお伝えいたします。

いつも大日製品をご利用いただきありがとうございます。

今回は私が携わる業務のーつカタログ作成についてお話しします。

厳密にいうと作成されたカタログの内容に変更が生じた場合のカタログの改訂ですが。

弊社の営業が印刷業者さんと打ち合わせに打ち合わせをかさねて1つのカタログを作成し発行します。後々、カタログに記載されている製品の内容に変更が生じた場合（数値、規格、使用方法、製品荷姿、新しい製品・工法の追加、等）にあわせて改訂します。

カタログにはそれぞれ管理番号がついていますので、管理番号も変更されます。管理番号はカタログの裏表紙の右下に記載されています。改訂されたカタログは管理番号のアルファベットがAから順番にB、C、D・・・と改訂されるたびに変更されます。お客様からの問い合わせで、持っているカタログが最新版かどうかの問い合わせがありますが、その際は裏表紙の管理番号のアルファベットを言っていただけると最新版がどうかすぐにお答えできます。

カタログ改訂のタイミングは弊社に在庫しているカタログの数が少なくなってそろそろ印刷業者に発注しようかという時に、各事業所営業と技術部スタッフにカタログの内容の変更がないかを聞いて変更があれば内容を改訂して印刷をかけてもらいます。

変更がある場合、その内容を印刷業者さんに伝え印刷前に変更箇所の校正をいただき、その校正を各事業所営業と技術部スタッフで確認してさらに変更があれば訂正しなおします。校正を確認したら従業員全員からOKが出てから印刷をかけてもらいます。

このカタログの改訂の作業自体は難しくはありませんが印刷業者へ改訂したカタログの発注をかけるタイミングが難しいのです。

発注をかけるタイミングを間違えると校正の確認中に弊社にあるカタログの在庫がなくなったり、逆にカタログの在庫がまだだけっこうあるのに改訂した新しいカタログが弊社に届いてしまって、改訂前のカタログがあまってもつ事態にならないよう・・・というタイミングを見極めて発注をかけるようにしていますが、なかなかうまくいかないので反省し通しです。

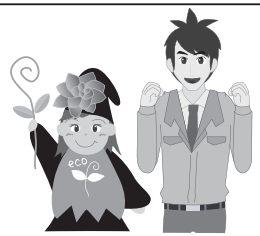
これからも、お客様に見やすくわかりやすいカタログを作っていきたいと思いますのでカタログに記載してほしいことがあればぜひご連絡ください

総務部　高野 麻弥

DAINICHI CHEMICAL CO.,LTD.

●本社
〒571-0030　大阪府門真市末広町 8-13
TEL：06-6909-6755(代)　/　FAX：06-6909-6702

●東京支店
〒105-0013　東京都港区浜松町1-2-5
TEL：03-3436-3801(代)　/　FAX：03-3436-3803



URL：http://www.dainichikasei.co.jp

Vol.14

映画で学ぶ環境問題

皇帝ペンギン

La Marche de l'empereur

監督	リュック・ジャケ
脚本	リュック・ジャケ ミシェル・フェスレール
製作	イヴ・ダロンド クリストフ・リウー エマニュエル・プリウー
製作国 / 公開	フランス 2005 年
上映時間	86 分

今回の映画は、フランスが製作した動物ドキュメンタリーの「皇帝ペンギン」。

実は、テーマを決めてから鑑賞をしたので「この選定は失敗だったかも！」と思ってしまったほど、冒頭から延々とペンギンたちが歩くシーンに疲れてしまいました。

「他の映画にしようか？」と考えつつ見ていると、意外にペンギンの生態は、なんと人間に近いことか、と、引き込まれていきました。

たとえば、出産と子育てのために餌場である海から遠く離れ、岩場で囲まれたコロニー（集団居住地）に移住するなどは、子育てのために環境の良い郊外にサラリーマン家族と似ています。

居を構えるシーンも、人間の男女とみまごうほど。産卵後、ヒナを飢えさせないために、妻が海に出稼ぎに行き、夫がひたすら待つ様子は、男女が逆転しているものの、やはり人間と同じような印象を受けます。

ペンギンといえば、ただノンビリ好き放題に生きているように思っていましたが、予想外に秩序正しく、規則的に生きていることを知り、「人間は特別だ」と考えていたことを恥じました。

親のふところから、ほんの数秒離れただけで卵が凍ってしまうという過酷な環境の中で、ペンギン族全員が一致団結して亀の甲のように丸まって、順番に暖まるという知恵にも、感嘆の声をあげそうになったほど。

居住地と餌場との20日交代の移住（移動）は、多くの犠牲者が出るとわかっていながら「彼ら自身が選択している運命」。その過酷な生き方を、なぜあえて選んでいるのか？見る物には疑問しか浮かびませんが、そこまでして子ども達を守ろうとしているのなら、ペンギン達の「母の愛の強さ」「父の愛の深さ」に想いが至ります。

こうしてじっくり見てみると、自然の摂理というものの『奥の深さ』を改めて認識せずにはいられず、「自然」に逆らって自分達の都合に合わせて生きてきた人間の傲慢さから、多くの問題が起こっているのだと、やはり改めて考えざるをえません。

その傲慢さのツケが、3.11後の原発事故など、取り返しがつかない大問題を引き起こしたのだと思えるからです。

「映画で観る環境問題」をテーマにしているこのコーナー。

どの映画を観ても、毎回、同じ結論にしか至らないのは、やはりそれだけ「自然」というものが、いかに力強いものかということなのでしょう。

さて、この映画の公開時には、皇帝ペンギンの赤ちゃんのキャラクターが大ヒットしましたが、後半に登場してくる赤ちゃんペンギン達は本当に可愛らしく、成長ぶりが本当に見物です。

環境問題からの視点だけでなく、ちょっと反抗期を迎えているような、そんなお子さんがいらっしゃるご家庭でも、ぜひ観ていただきたい秀作です。